5．共催・協力事業

ボランティア・NPO 活動センターには、さまざまな地域団体や行政などから事業への協力依頼があります。センター内でどのように関わっていくのかを検討し、多くの場合、学生スタッフやコーディネーターが協働でそれらの依頼に対応しています。

事　業　名	NGO スタディツアー合同説明会
日　時	夏季ツアー説明会：2018年6月23日（土）13時30分～17時00分 冬季・春季ツアー説明会：2018年11月17日（土）13時30分～17時00分
場　所	夏季説明会：大阪梅田キャンパス　研修室 冬季・春季説明会：大阪梅田キャンパス　研修室
実施主体（共催）	特定非営利活動法人　関西 NGO 協議会、株式会社　マイチケット 龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	夏季　80名／冬季・春季　50名

1．経緯・目的

センターには年間を通して「海外でのボランティアに関心がある」「長期休暇中にスタディツアーに参加してみたい」「どんなスタディツアーがあるのか知りたい」という学生が多く来室します。そこで、センターの提携団体である（特活）関西 NGO 協議会と、海外体験学習プログラムでも各種手配に携わっている㈱マイチケットとの共催で、スタディツアーを企画している NGO を集めて合同説明会を2009年度より年2回開催しています。

2．概　要

（1）13：45～14：00

「スタディツアーって何？あなたにぴったりのスタディツアーって？」

スタディツアーの概要についてマイチケットスタッフより説明していただきました。

（2）14：00～16：30

「各ブースで説明を聞こう！」

参加 NGO（別表）が会場内にブースを設け、それぞれの企画するスタディツアーについて説明しました。参加者はそれぞれ関心のある団体のブースを訪問し、団体の取り組みやツアー内容などを個別に質問します。出展団体以外のチラシや団体パンフレット等も設置し、参加者が手に取って比較・検討できるようになっています。

（3）16：30～17：00

プレゼント抽選会

出展団体のオリジナル商品や、旅行券が当たる抽選会が実施されました。

	ブース出展団体
6月	・ICYE ジャパン（インドネシア） ・アクション（フィリピン） ・アクセス－共生社会をめざす地球市民の会（フィリピン） ・ウータン・森と生活を考える会（インドネシア） ・CFF ジャパン（フィリピン・マレーシア） ・アーシャ＝アジアの農民と歩む会（インド） ・ツナミクラフト（タイ） ・PHD 協会（ネパール・ミャンマー） ・緑の地球ネットワーク（中国） ・ニランジャナセワサンガ（インド） ・ジュレーラダック（インド） ・アジア太平洋資料センター（エクアドル） ・マイチケット ・関西 NGO 協議会（NGO 相談員） 計14団体

11月	・ICYE ジャパン（インドネシア） ・アクション（フィリピン） ・アクセス－共生社会をめざす地球市民の会（フィリピン） ・ウータン・森と生活を考える会（インドネシア） ・CFF ジャパン(フィリピン･ミャンマー･マレーシア） ・アーシャ＝アジアの農民と歩む会（インド） ・ツナミクラフト（タイ） ・PHD 協会（ネパール） ・緑の地球ネットワーク（中国） ・ニランジャナセワサンガ（インド） ・環境保全ネットワーク京都（台湾） ・ムラノミライ（ネパール） ・マイチケット ・関西 NGO 協議会（NGO 相談員） 計14団体

3. 参加者の声・得られた効果など

・ネットや資料だけ見ていてもよく分からなかったが、実際に行った方達の話が聞けて、安心できた。

・今まで興味があってもなかなか参加するまでにはいたらなかったが､今回直接話を聞けて、ぜひ行ってみようと思っている。

・一度にたくさんのツアーの話が聞けたので良かった。ツアーを選ぶ際に参考になる。

4. コーディネーター所感

グローバル社会と言われて久しい昨今ですが、本当に学生達の視線は外を向いているでしょうか。スタディツアーは現地の社会課題に取り組み、その解決のために活動をされているNPO 団体が主催されており、大変学びの多いツアーです。ツアーに参加した学生は短い期間に多くのことを体験し、考え、そして帰国後も問題意識を持って学生生活を送っています。日本にいてはできないような経験を通して視野を広げ、さらに世界の諸問題へと目を向けていってほしいものです。この説明会が学生の参加のきっかけとなるように、今後も多くの学生に広報していきたいと思います。

〈報告者名：上手　礼子
（瀬田キャンパス　コーディネーター)〉

事　業　名	セーフトラベルセミナー
日　時	2018年4月26日（木）10時00分～17時00分
場　所	キャンパスプラザ京都6階　龍谷大学サテライト教室
実施主体（共催）	特定非営利活動法人　関西NGO協議会、株式会社　マイチケット ボランティア・NPO活動センター
対　象	大学・高校およびNGOのスタディツアー、海外研修、 フィールドワークの企画担当者
参加人数	26名

1. 経緯・目的

海外での「体験学習プログラム」や「スタディツアー」の目的地は感染症発生地域でもあり、思わぬ事故が発生する可能性もあります。感染症・事故に対する危機管理・対応は、海外での体験学習プログラムやスタディツアーを企画・運営する大学やNGOにとって避けて通れない課題であるといえます。また、「体験学習プログラム」や「スタディツアー」には、様々な目的意識や背景、特性をもった参加者が参加することから、参加者の状況を把握し、充実したスタディツアーを運営するために、具体的な事例や最新情報から企画・運営・引率担当者が学び合うことが求められます。そこで、安全でより充実した「体験学習プログラム」や「スタディツアー」実施の為に、大学の海外体験学習・実習やNGOのスタディツアーの企画・運営・引率担当者のレベルアップを図ることを目的として、セーフトラベルセミナーを年に1回開催しています。関西を拠点とする国際NGOの連合体である特定非営利活動法人関西NGO協議会、スタディツアーを数多く主催し実績のある株式会社マイチケット、そして龍谷大学との三者共催で実施し、医師と旅行保険、旅行業法のスペシャリストを講師に招いて学びを共有しています。

2. 概　要

講師：宮川眞一氏（元日本キリスト教海外医療協力会バングラディッシュ派遣医師、心療内科医）
副島大典氏（AIG損害保険株式会社）
山田和生氏（株式会社マイチケット）

（1）第一部　10：00～13：00（基礎編）
「基礎から学ぶ危機管理」
・旅行業法の基礎知識
・旅行保険の基礎知識
・感染症の基礎知識
・質疑応答

（2）第二部　14：00～17：00（テーマ編）
「様々なアレルギーを持つ参加者への対応」
・アレルギーに関しての解説
・アレルギー事例報告
・アレルギーと関連する旅行保険についての解説
・アレルギーと関連する旅行業法についての解説
・質疑応答

3. コーディネーター所感

このセミナーは、ツアーの安全な運営のために過去のさまざまなトラブルの経験から学ぼうと、2007年から始まり今年で12年目となりました。その間、ツアー先の現状も、スタディツアーをめぐる環境も、大きく変化してきています。安全対策や、世界情勢の変化に対応しつつ、スタディツアーの大きな魅力である、現地での生きた学びがえられるよう、多くの団体や学校関係者に参加いただいています。

海外では日本の常識は通用しません。日常的に安全で平和な日本に暮らしている私たちにとって、海外はある意味、未知の世界であり、どんなに旅慣れているツアー主催者であっても、常に安全や健康管理に注意が必要です。そうやって、細心の注意を払っていても起こってしまう事故、病気などのトラブルにどのように対応してきたのかという経験値を積み重ねてきたのがこのセミナーです。

今後も安全なツアーの運営を目指す団体、関係者とともに、このセミナーを通して学びを共有していきたいと思います。

〈報告者：上手　礼子
（瀬田キャンパス　コーディネーター）〉

事　業　名	第12回　大学ボランティアセンター全国フォーラム2018
日　時	2018年9月12日（水）10時30分～19時30分 2018年9月13日（木）9時30分～16時30分
場　所	深草キャンパス　和顔館 B104／B105／B106／B107教室／生協食堂
主　催	特定非営利活動法人ユースビジョン
共　催	龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター
対　象	大学で学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの運営、実践に関わる教職員､これらの開設を検討している教職員 / 大学ボランティアセンター等と連携している学外のボランティア活動支援組織
参加人数	42名

1. 経緯・目的

大学では、サービスラーニングや PBL など、名称は様々ですが、地域と連携して、何らかの実践活動を伴う教育プログラムが広がりを見せています。また単なる課外活動支援という枠を超えて、教育活動として学生のボランティア活動を支援する動きも広がっています。その一方で大学が教育的な意義を重視し、様々なプログラムを用意することで、参加する学生が受け身になるというジレンマに悩むケースもあるようです。こうした状況を踏まえつつ､「ボランティア活動の価値」や「ボランティア活動だからこそ身につけることができる学びとは何か」をあらためて問うとともに、そうした学びのしかけ方について考えます。

また、6月の大阪北部地震、平成30年7月豪雨など大きな災害も相次ぎ、こうした中で、ボランティアセンターは、学内外の組織とどのように連携しながら、どのような対応ができるのかを考えます。

2. 概　要

9月12日（水）【1日目】

10：30　オプション企画「大学ボランティアセンター基礎セミナー」
12：00　昼食休憩
13：00　受付
13：30　フォーラム開会挨拶
13：45　オリエンテーション・参加者紹介
14：00　全体会1「ボランティアだからこそ身につく学びとは？」
　　進行：赤澤清孝（ユースビジョン代表／大谷大学准教授）
　　基調講演：筒井のり子（龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター副センター長／龍谷大学　教授）
　　リレートーク：山口洋典（立命館大学准教授）
16：00　会場校見学（龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター）
　　学生スタッフとコーディネーターによるセンター事業や学生スタッフの活動紹介と、センター内覧。
17：30　情報交換会
19：30　1日目終了

9月13日（木）【2日目】

9：30　全体会2「災害支援活動への備えをどう進めるか」
12：30　昼食休憩
13：30　テーマ別ディスカッション（分科会）
16：00　閉会挨拶・アンケート記入
16：30　フォーラム終了

3. コーディネーター所感

大学ボランティアセンターの職員を対象とした研修はほとんどなく、このフォーラムは、私たちコーディネーターにとって貴重な学びの機会となりました。同時に、全国各地の大学ボランティアセンターや学生の課外活動の支援をしている職員の方々に､龍谷大学､そしてセンターにお越しいただき、学生スタッフより取り組みについての報告ができたことは、学生スタッフにとっても良い機会をいただいたように思います。今回の学びと経験を、これからのセンターの運営に活かしていきたいと思います。

〈報告者：國實　紗登美
　　（瀬田キャンパス　コーディネーター）〉

事　業　名	大学生版　災害ボランティアセンター講座
実施日	2018年11月27日（火）17時30分～19時00分
場　所	深草キャンパス　和顔館 B106教室
主　催	社会福祉法人　京都市社会福祉協議会
協　力	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生15名

1. 経緯・目的

ボランティア・NPO 活動センター（以下、当センター）は、「大学のまち京都　災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」を京都市社会福祉協議会（以下、京都市社協）および京都市内のその他4大学のボランティアセンター（京都産業大学ボランティアセンター、同志社大学ボランティア支援室、佛教大学社会連携センター学生ボランティア室、立命館大学サービスラーニングセンター）と共同表明しています。同宣言は、平時から災害に備えると共に、災害が発生した際には共にその対応にあたることを示すもので、これに基づき当センターでも京都市社協に毎年活動協力を行っています。

3年目にあたる今年度も、災害ボランティアセンターでの運営スタッフや活動リーダーとして即戦力となる学生の育成を目的として、本講座の学内開催に係る協力を当センターが行いました。

2. 概　要

講師：藤井　一さん（京都市社会福祉協議会副部長）
　　石川　貴子さん(同協議会　社会福祉士)

内容：

前半は災害ボランティアの変遷や活動する際の心得と災害ボランティアセンターについて講義形式で学ぶ基礎講座、そして後半は、災害ボランティアセンターでボランティアの受付から活動終了までどのように運営されているかということを体験するため、参加者でロールプレイ演習を行いました。

演習では、ボランティア役と災害ボランティアセンターのスタッフ役に分かれ､受付ブース、依頼案件を説明して活動者を募るブース、資機材の貸し出しブース、ボランティアを必要とされる方の対応ブースなどを参加者で体験しました。特に対応ブースでは対面の場合と電話対応の場合の2パターンを演習し、ニーズ聞き取りが思いのほか難しいことを実感しました。

最後に、この講座に出席して希望すれば登録することができる『京都市災害ボランティアセンター　学生サポーター』募集のアナウンスで講座は締めくくられました。

3. 参加者の声

・復興支援ボランティアには、こういう形の活動もあるのだと思った。
・ニーズを聴きとるのが難しかった。
・災害ボランティアセンターの役割について知ることが出来た。

4. コーディネーター所感

龍谷大学の『東日本大震災等復興支援活動』に参加経験のある学生が大半を占めており、災害ボランティアへの関心が継続していることも伺え、実践に即した内容を学べる良い機会となりました。

一方で、開催日時について主催者側との調整が遅れたため、広報期間が短く参加者が少なかったことから、今後も学内で開催する場合は少なくとも1カ月前には広報を開始する必要があると感じています。

〈報告者：ヒギンズ　尚美
　　（深草キャンパス　コーディネーター)〉

その他報告

センターでは、これまで報告してきた事業以外にも、地域団体や学内他部署からの呼びかけに基づき、以下の学内外の取り組みに参加しました。

■平成30年度　京都市総合防災訓練

京都市社会福祉協議会からの呼びかけで、学生5名、専任職員1名が参加しました。

開催日：2018年9月1日（土）
場　所：太秦小学校
内　容：避難所運営訓練、災害ボランティアセンター設置運営訓練、起震車体験、防災展示コーナー等
主　催：京都市　行財政局防災危機管理室

■大津市総合防災訓練

大津市社会福祉協議会からの呼びかけで、学生7名、コーディネーター1名が参加しました。

開催日：2018年9月17日（月・祝）
場　所：大津市立日吉中学校を主会場とした大津市坂本学区、下阪本学区一帯
内　容：土砂災害発生の危険や、同時火災の発生、堤防の損壊などを想定した訓練
主　催：大津市　危機・防災対策課

■平成30年度 深草地区防災訓練

深草学区自主防災会からの呼びかけで、学生6名、コーディネーター1名が参加しました。

開催日：2018年11月18日（日）
場　所：京都市立深草小学校
内　容：龍谷大学東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示、学生による復興支援活動の発表、手作り防災グッズブースの補助など
主　催：深草学区自主防災会

■第24回　野宿者支援もちつき大会

センターとの提携団体である特定非営利活動法人JIPPOからの呼びかけで、学生10名、コーディネーター1名が参加しました。

開催日：2019年1月19日（土）
場　所：東本願寺前　噴水広場周辺
内　容：リユース食器回収ブースの運営、水運び、もちつき補助、豚汁の調理補助等
主　催：野宿者支援もちつき大会実行委員会

■社会連携・社会貢献活動報告会「EFFECTOR’ｓフェスタ」

龍谷エクステンションセンター（REC）からの依頼で、学生スタッフの竹本智紀さん（法学部2回生）がセンターの活動事例としてプレゼンテーションを行いました。

開催日：2019年3月24日（日）
場　所：深草キャンパス和顔館アクティビティホール
内　容：「サマーフェスティバル2018」の活動紹介（ポスターセッションとプレゼンテーション）
主　催：龍谷エクステンションセンター（REC）